

第 35 回健全財政推進区民懇話会 議事要旨

日 時：令和 7 年 2 月 10 日（月）14 時 00 分～15 時 20 分

会 場：区役所本庁舎 4 階 第一委員会室

出席者：座 長 白木 三秀 専門委員（早稲田大学名誉教授・国士舘大学大学院客員教授）

委 員 青木 香保里 区民委員

（五十音順）江原 春美 区民委員

棚橋 公夫 専門委員（公認会計士）

間瀬 恵二 専門委員（企業経営者：㈱不二製作所代表取締役会長）

横山 巖 専門委員（企業経営者：東工・バレックス㈱取締役会長）

議事要旨：

- 1 開会
- 2 区長挨拶
- 3 白木座長挨拶
- 4 持続可能な江戸川区に向けた取り組みと令和 7 年度当初予算案について

（区からの説明）

- 持続可能な江戸川区の実現に向けて、令和 3 年度から取り組みを進めてきた。令和 6 年度は行政サービスの水準と区民負担のバランスについて、様々な方法で区民の皆さまに投げかけ、多くのご意見を聴いてきた。そして、区民アンケートの結果を踏まえ、区は今後の方向性を「中サービスー中負担」と決定し、各事業の具体的な取り組みについて意見募集（パブリック・コメント）を実施した。
- 「中サービスー中負担」の方向性に沿った各事業の具体的な取り組みについては、意見募集（パブリック・コメント）で頂いた意見を整理し、区民の皆さまや関係団体等に丁寧に説明する時間が必要なことから、令和 7 年第二回定例会以降の議会に諮ることを予定している。
- そうした方針のもと、令和 7 年度の新年度予算は、法改正や災害対策、まちづくり、教育など、年度当初から必要な事業を中心に予算編成を行った。
- 主要な新規・拡充事業としては、高所カメラや市街地カメラ、ドローンなどを活用した迅速かつ正確な情報収集体制の構築や、大規模水害時の物資運搬機能を強化するため、手漕ぎボートを船外機付きボートへ改修するなど、地震や水害などへの備えをさらに強化し、災害に強いまちづくりを進めていく。
- また、「人口減少を和らげる」取り組みとして、ライフステージに合わせた子育て支援「えどがわ 50 の子育てプラン」を拡充する。一時的な保育を目的としたベビーシッターの無料利用の上限時間拡大や、区立小学校において共有できる一部学用品の公費購入など、子育てにかかる時間的・経済的負担を軽減していく。
- そして、「経済成長を支える人材の育成」として未来を担う子どもたちへの教育にも力を入れる。プロダンサーによるダンスの出前授業の実施や、不登校の児童・生徒をサポート

するためのエンカレッジサポーター（校内別室指導支援員）の配置など、誰一人取り残さない教育を実践していく。

（主な意見の内容）

＜CO₂排出量削減の取り組みについて＞

- 区施設全体でのカーボンハーフ（CO₂排出量 50%超削減）の目標達成を、2030年度から2026年度へ前倒しするのは画期的である。大いにアピールしていくべき。

＜外国人との共生について＞

- よく外国人が増えると治安が悪くなると言われるが、日本人でも常識的でない行動をする人はいるので、一概に言えない。むしろ、外国人の方が日本の常識やマナーをきちんと学んでいると感じることもある。
- これからは定住する外国人が増えてくる。外国人だけでなく、日本人も馴染めるように融和策を実施していく必要がある。

＜家庭ごみの有料化について＞

- 家庭ごみを有料化すればごみの減量が見込めるので、早期に実施していくべき。

＜ベビーシッター利用支援事業について＞

- 特に自宅保育をしている保護者は、常に子どもと一緒にいることで精神的な負担が大きい。一時的に子どもを預けることができれば、とても助けになる。しかし、子どもの世話をしながら利用手続きをするのは負担が大きいので、手軽に利用できるよう手続きのハードルを下げしてほしい。

＜区内産業について＞

- 近年、区内の商店街や工場が減少し、区外で就労している人が増加していると感じる。将来、職住近接のまちでなくなってしまうことを危惧している。

＜学校における保護者の経済的な負担軽減について＞

- 現在、他自治体が教育に関わる経費の無償化を打ち出している。江戸川区も給食費の無償化を先駆けて行い、ありがたかった。今後、子育て支援に力を入れている区として、どこに注力していくのか、一区民として気になる。
- 来年度から実施される学用品の公費購入は、所得制限がなく、子育てしている人が平等に支援を受けられて良いと思う。

＜すくすくスクールについて＞

- 学童保育の時間延長、補食の実施、学校長期休業期間中の宅配弁当など、内容が充実している。職員も細やかに気を配り、子どもたちにとって安心でき、居心地の良い場所になっていると感じる。